

鎌倉街道 ^{ナカツミチ} 中道 をたどって

(令和 6 年秋の見学会 令和 6 年 11 月 14 日実施)

「いざ鎌倉」、鎌倉幕府の御家人が幕府に馳せ参じるときのたとえとして、謡曲で使われ始めたようですが、実際に関東の各地から鎌倉に通じる道が現在も言い伝えられています。今回の見学会は豊島区雑司が谷から早稲田方面に「鎌倉街道中道」の跡をたどりしました。

見学会開催日 令和 6 年 11 月 14 日 (木)

見学コース 雑司が谷鬼子母神堂集合→宿坂→金乗院(目白不動)→南蔵院→
高田氷川神社→面影橋→^{リョウチョウイン}亮朝院 → ^{ユタカバシ}豊橋 →下戸塚遺跡(現早稲田大学図書館付近)→穴八幡宮→東京メトロ早稲田駅解散

見学を終えて

集合場所は鎌倉街道とは関係ないのですが雑司ヶ谷鬼子母神堂です。縁起は天正 6 年(1578 年)に遡り現在の本堂は寛文 6 年(1666 年)に造られ、豊島区内最古の建造物とされています。重厚な趣の建物で当日は七五三詣りの家族が何組か訪れていました。また参道には欅並木があり、中には樹齢 400 年を超える大木も数本残っていました。

鬼子母神堂を出て鬼子母神参道に向かう前に本納寺方面に寄り道です、このあたりは江戸期以降に開発されていますが、それ以前の街道は本納寺付近を通り宿坂に向かったのではとの推測を確認し鬼子母神堂の参道を宿坂に向かいます。東京に残る唯一の都電(さくらトラム)の線路を超え、道なりに進み目白通りを渡ると急な坂道「宿坂」です。江戸名所図会にも「宿坂関旧址」と描かれた坂道です。今回は下りに使用しましたが、上るのは辛いのではと思える坂道です。下ったところに「金乗院」があります。こちらでも江戸名所図会に描かれていますが、現在では、昭和 20 年の空襲で焼失した文京区関口にあった目白不動堂を合併し金乗院の本堂に聖観音菩薩、不動堂に目白不動が祀られています。更に南下すると角に南蔵院がありここで道は分岐します。南蔵院の境内には、相撲の音羽山・糸川・花籠・二子山・片男波など力士の墓があると解説版に書かれていました。墨田区は国技館があり相撲部屋として聞き覚えのある力士名とのつながりに親近感が湧きました。正門より出て向かいの高田氷川神社、面影橋方面に進みました。面影橋の上より神田川の川底の様子を確認し、新目白通り横断すると新宿区です。ここでは、江戸時代に高田の七面山として信仰された亮朝院に立ち寄りしました。

近くの甘泉園公園で小休止後、再び面影橋に戻ります。橋の手前に面影橋の由来碑、橋を渡るとマンションの片隅に太田道灌の山吹の里伝説の碑を確認し、先程の道を南蔵院



まで戻ります。

本日の目的である鎌倉街道の宿場跡についてです。正徳六年（1716 年）の豊島郡下高田村図（高田村絵図）によると金乗院前付近に上宿、突き当たった南蔵院を東に曲がると中宿の表記があるものの、上・中とあれば、下宿も存在していたと思われますが見当たりません、この頃には街道から外れて廃れてい

たと考えるのが妥当との見解により南蔵院手前を東に向かいます。現在は商店、住宅が混在していますが、地図上では神田川と平行に道が続いているようです。途中の空き地からは、神田川を挟んだ南側に台地が見渡せました。

T 字路で南に向かうと豊橋があります。橋の上から川床を見ると、水面直下に岩盤が続いています。この付近が橋のない時代に川の渡河点ではなかったのかとのこと、現在の岩盤は氾濫を防ぐために上部を削ったような跡があり、古くは水面上に露出していたとも推測されます。上宿から東に曲がり中宿さらに東に向かい下宿、そして神田川の河床の浅い渡河点から南の台地に向かう道が推測されるとの事、川を超えた台地上には、現在早稲田大学の中央図書館がありますが、建築前の発掘調査で「下戸塚遺跡」が確認されています、建物群や遺物の年代は 13～15 世紀で鎌倉時代と思われます。このあたりを街道が通っていたと考えると豊橋付近の渡河点、中宿から東に下宿があり街道筋と思えてきました。その後穴八幡宮に立ち寄り早稲田駅で解散となりました。

中世の鎌倉街道中道を辿った見学会でしたが、江戸名所図会に紹介されている寺社の多くが創建年代も江戸期で、江戸名所図会に「宿坂関の旧跡で昔の奥州街道にしてその頃関門あり」と記されている程度で寺社の中世を伝える由来などなく、高田村絵図の上宿・中宿の表記が中世の名残でした。江戸期になり江戸を起点とした街道の発達とともに道筋の変化があり、次第に宿も縮小していったのではないかと思います。

私達の活動している、墨田区内にも、古代東海道に関わった「隅田宿」が跡形もなく^{スタノシュク}なっている事実を思い起こしました。

今回の見学会には、すみだ郷土文化資料館の専門員をはじめ、館職員の方々の企画により実現しました、種々の資料をご提示いただき、途中わかりやすい解説とともに、有意義な半日を過ごしました、ありがとうございました。〈久保田 記〉